

平成2年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 和田 豊治 先生

和田豊治先生は、約半世紀にわたる学究生活の間、脳波学とてんかん学の研究と実践に尽くし、本邦のてんかん学の発展に多大の寄与をされました。

先生は昭和17年に北海道帝国大学を卒業、精神科教室で脳波の研究に専念し、昭和23年に東北大学に転じた後にも脳波によるてんかん研究に精魂を傾けられました。昭和28年に米国ハーヴァード大学に留学、帰国後には「臨床脳波」と題する単行本を出版されました。本書が本邦初の臨床脳波の手引き書として果たした功績は大でありました。

先生は昭和31年に弘前大学の教授に昇任され、在任10年間に数多くの教室員を養成するかたわら、てんかんを主とした診療と研究にあたり、昭和34年には第8回日本脳波学会会長をつとめられました。

昭和41年に東北大学に転じ、精神医学講座主任として教室を主宰されました。研究活動は多岐にわたりましたが、とくに脳波とてんかんの業績は大きく、本邦斯界のパイオニアの役を果たされました。日本てんかん学会の前身である日本てんかん研究会副会長のほか、国際抗てんかん連盟の日本代表をつとめられました。昭和45年に病いに伏されましたが、床上で書いた「臨床てんかん学」は本邦における新しいてんかん学の指針的役割を果たしました。

昭和48年に17年にわたる教授職を辞し、かねて念願であったてんかん診療に専念するために、国立武蔵療養所に出向されました。昭和50年2月に国立療養所静岡東病院院長に就任し、ここにわが国初のてんかん医療のための基幹施設、てんかんセンターの設立にあたられました。在任10年間にセンターがおさめた成功は、先生の豊かな学識経験と指導力さらには患者への共感によるものであります。

この間、国際抗てんかん連盟副会長に就任し、昭和51年に京都で開かれた国際てんかん学会議の国際組織委員会の委員長をつとめられました。先生の永年の国際的活動に対して国際てんかん連合から「てんかん使節」が授与されています。

先生は昭和60年に静岡東病院を退職し、同院の名誉院長となりました。同時に、日本てんかん学会と日本脳波・筋電図学会から名誉会員の称号が贈られています。これらは、先生の永年にわたるてんかん学に対する造詣と使命感の深さを物語るものであります。